

どこがちがう？ 慣用句の直し④

なまえ _____

場めん に 合わない 慣用句を 直そう～がんばりと 結果の 場めん～

ひづけ _____

- ・問1は 下線が 引いて ある。問2からは、がんばりや 結果に 合わない 慣用句の ところに 自分で 下線を 引こう。
- ・場めん に 合う 慣用句に 直して、文ぜんぶを 横線に 書こう。ことばの おわりは かえて よい。
- ・問1～2は 下の 箱から えらぼう。箱の ない 問は、場めん に 合えば どの 慣用句でも よい。
- ・直さなくて よい 文は、下線を 引かずに、横線の 上に 『なおさない』と 書こう。

- (1) 場めん ピアノを もっと じょうずに なりたくて、毎日 練習を つづけた。

ぼくは 油を売った。

→ _____

- (2) 場めん 転校生の 絵が とても じょうずで、すっかり 感心した。

わたしは 鼻を折った。

→ _____

- (3) 場めん 入学したばかりの 弟が、水泳の 大会で、みんなが おどろく ほど 速く 泳いで 注目された。

弟は 水泳の 大会で 二の舞^まを演じた。

→ _____

- (4) 場めん 習字を 毎日 つづけたら、字が 前より ずっと きれいに なった。

ぼくは お茶^{にこ}を濁した。

→ _____

- (5) 場めん ずっと 勝てなかった 兄と、ついに 同じくらいの 力に なった。

ぼくは ついに 兄と 雲泥^{うんでい}の差だった。

→ _____

- (6) 場めん なんとなく 引いた くじで、一等が 当たった。

これは ぼくに とって 水の泡^{あわ}だった。

→ _____

- (7) 場めん 司会を 一年 つづけたら、すっかり なれた。

ぼくの 司会は すっかり 板についた。

→ _____

- (8) 場めん マラソン大会で、足が いたくても、くやしさに たえて 走りぬいた。

ぼくは 気を抜^ぬいて 走りぬいた。

→ _____

- (9) 場めん クラスの みんなは、ゆうきさんの 努力を 見て、すごいと みとめた。

みんなは ゆうきさんに 背を向けた。

→ _____

- (10) 場めん この 店の ケーキは 味が たしかだと、だれもが みとめて いる。

この 店の ケーキの 味は 根も葉もない。

→ _____

ことばの 箱(問1～2で つかえます。つかわない ことばも あります)

蛙^{かえる}の子は蛙^{かえる}

腕^{うで}を磨^{みが}く

木で鼻をくくる

舌を巻く



どこがちがう？ 慣用句の直し④【こたえ】

なまえ _____

場めん に 合わない 慣用句を 直そう～がんばりと 結果の 場めん～

ひづけ _____

- (1) 場めん ピアノを もっと じょうずに なりたくて、毎日 練習を つづけた。

ぼくは 油を売った。

→ ぼくは 腕を磨いた。

- 腕を磨く=うでまを 高める どりよくを する
× 油を売る=しごとの とちゅうで むだ話を する

- (2) 場めん 転校生の 絵が とても じょうずで、すっかり 感心した。

わたしは 鼻を折った。

→ わたしは 舌を巻いた。

- 舌を巻く=すごさに 感心する
× 鼻を折る=あいての 自しんを くじく

- (3) 場めん 入学したばかりの 弟が、水泳の 大会で、みんなが おどろく ほど 速く 泳いで 注目された。

弟は 水泳の 大会で 二の舞を演じた。

→ 弟は 水泳の 大会で 頭角を現した。

- 頭角を現す=才能が みとめられ はじめる
× 二の舞を演じる=同じ しっぱいを くりかえす

- (4) 場めん 習字を 毎日 つづけたら、字が 前より ずっと きれいに なった。

ぼくは お茶を濁した。

→ ぼくは 腕が上がった。

- 腕が上がる=じょうたつする
× お茶を濁す=その場しのぎで ごまかす

- (5) 場めん ずっと 勝てなかった 兄と、ついに 同じくらいの 力に なった。

ぼくは ついに 兄と 雲泥の差だった。

→ ぼくは ついに 兄と 肩を並べた。

- 肩を並べる=同じくらいの 力に なる
× 雲泥の差=とても 大きな ちがひ

- (6) 場めん なんとなく 引いた くじで、一等が 当たった。

これは ぼくに にとって 水の泡だった。

→ これは ぼくに にとって 棚からぼたもちだった。

- 棚からぼたもち=思いがけない 幸運
× 水の泡=どりよくが むだに なる

- (7) 場めん 司会を 一年 つづけたら、すっかり なれた。

ぼくの 司会は すっかり 板についた。

→ 直さなくて よい

- 板につく=なれて ぴったり 合う
場めん に 合っ て いる ので 直さ ない。

- (8) 場めん マラソン大会で、足が いたくても、くやしさに たえて 走りぬいた。

ぼくは 気を抜いて 走りぬいた。

→ ぼくは 歯を食いしばって 走りぬいた。

- 歯を食いしばる=くるしさを こらえて がんばる
× 気を抜く=ゆだんする

- (9) 場めん クラスの みんなは、ゆうきさんの 努力を 見て、すごいと みとめた。

みんなは ゆうきさんに 背を向けた。

→ みんなは ゆうきさんに 一目置いた。

- 一目置く=すぐれて いると みとめて うやまう
× 背を向ける=あいてに 関心 を 持た なく なる

- (10) 場めん この 店の ケーキは 味が たしかだと、だれもが みとめて いる。

この 店の ケーキの 味は 根も葉もない。

→ この 店の ケーキの 味は 折り紙付きだ。

- 折り紙付き=たしかだと 保証されて いる(ほかに: 太鼓判を押す)
× 根も葉もない=まったく 理由が ない

○の つけ方

こたえは 一れい です。場めん に 合う 意味の 慣用句 なら、ここ に ない 慣用句 でも、おわりの かたち が ちが っても ○。

☐ 下線を 引いた ☐ 場めん に 合う 慣用句 に 直せた ☐ 直さ なく て よい 文 (問7) は『な おさ ない』と 書 け た